様　式　Ｆ－１９－２

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ３０ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2016～2019
課題番号：１５ＫＫ０１０８

研究課題名（和文）対中央アジア政策の日中比較（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Comparing Japan and China in Central Asia(Fostering Joint International Research)

研究代表者
ダダバエフ　ティムール（Dadabaev, Timur）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：１０３７６６２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　7,600,000円
渡航期間：　７ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は日中米政府の対中央アジア政策の位置付けての説明を試みた。その結果、各国政府の重要性と位置づけの違いが判明した。中国の場合、資源開発と貿易以外において近年のインフラ開発が最重要課題とされており、その中で中央アジア地域に発展をもたらすというより、中国の経済発展の維持が重視されている。米国の場合、ロシアや中国の拡大の制限という政治的な目標以外にアフガニスタンにおける米国の戦略を成功させる意味でも中央アジア地域は非常に重要な位置づけにある。そして、日本の場合、中央アジア地域における政策上の位置づけは今後の重要な課題であり、現時点において資源開発、経済的なフロンティアに過ぎないものになっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、①中央アジア諸国が米国、中国と日本とどのように接してきたのか、その戦略はいかなるものだったのかを論じた上で、②これらの関係において様々な国際機構や枠組みが存在するが、これらの実態や相互関連性、③中央アジアにおける米国、中国と 日本のソフトパワーの構築過程が現在どのような段階にあるのか、④中央アジア諸国と中国と日本の関係における領土問題、天然資源を位置づけ、分析を進めた。本研究の進展により、日本および国際機関に対し中央アジア諸国に対する援助政策の立案、実施の際の指標を設定することが可能となり、有する課題に対する域内協力や相互理解に関してもこれらを促進するための提案も想定される。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed initiatives and concepts initiated by the US, China, Japan and South Korea (the Republic of Korea) towards Central Asia to ascertain their impact on regionalism and regional cooperation in Central Asia.This study focused on the formation of the discourse of engagement with the region of Central Asia through the notion of the Silk Road narrative. The author put forward the prospects for engagement and cooperation in the region by analyzing initiatives such as the Eurasian/Silk Road Diplomacy of Japan of 1997, the Shanghai Process by China, the Korean corporate offensive, and other so-called Silk Road initiatives such as One Belt One Road (OBOR) or the Belt and Road Initiative (BRI). The study argued that material factors and interests of state are not the only motivations for engagement with Central Asia. Cultural environment and identity act as additional incentives for the states' cooperation as these factors create a space for actors in global politics.

研究分野：国際関係

キーワード：中央アジア　中央アジアプラス日本　一帯一路

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

旧ソ連中央アジア諸国の国際関係や米国、ロシアといった大国との関係は、その多様性・歴史性から重要な研究課題とされてきた。しかし、この地域諸国と中国と日本の関係の総合的な理解に有効な仕組みを指摘する研究は非常にまれであった。例えば、湯浅（2004 年）や岩下（2009 年）のような個別の問題として中央アジア諸国の上海協力機構や中央アジアプラス日本への参加に関する叙述的な研究か、宇山、他（2008 年）の日本の中央アジアへの歴史的な関わりや支援などに関する解説やレン（2007 年）の日本の中央アジア政策を概説する研究があるが、そこでは中央アジア諸国とアメリカ、中国と日本との関係の特徴と分析、そしてこれらの国のこの地域へのアプローチの相違点と共通点については言及されていない。これに対して、研究代表者は、①独立から現在までの転換期において、中央アジア諸国が米国、中国と日本とどのように接してきたのか、その戦略はいかなるものだったのかを論じた上で、②中央アジアと米国、中国と日本の関係について、様々な国際機構や枠組みが存在するが、これらの実態や相互関連性、中央アジア諸国の見解を明らかにし、③中央アジアにおける米国、中国と日本のソフトパワーの構築への試みがこれまで論題となってきたものの、その過程が現在どのような段階にあるのか、④中央アジア諸国と中国と日本の関係における領土問題、天然資源を位置づけ、分析を進める必要があると感じていた。

２．研究の目的

本研究の目標は、中央アジア地域に対する米国、中国と日本の外交政策の比較研究を行うことである。基課題の研究目的は中国と日本の対中央アジア政策の比較であった。その研究のなかで、中央ユーラシアにおける政治的な安定化、民主主義と対テロ戦いの仕組みの検討においてアメリカ外交政策は重要不可欠であるにも関わらずアメリカ、中国と日本の対中央アジア政策の比較をした研究はほとんどないことが明らかとなった。
そこで本国際共同研究は以上の研究を発展させる形でアメリカの中央アジアに対する外交政策に対象を絞り、その特徴、発展過程と対比を目的とした。特に、中央アジア諸国とアメリカと日本の間にみられる協力をどのように概念化すべきか。アメリカが中央アジアとの関わりをよりダイナミックなものにするうえで、日本、ロシアや中国と中央アジア諸国の協力関係はいかなる示唆をあたえるのかという問いに答える。

３．研究の方法

派遣期間中に研究代表者はコロンビア大学ハリマン研究所において客員研究員の身分で所属した。共同研究の体制としてコロンビア大学校内に研究室をおき、共同研究者である Cooley 教授と日常的にアドバイス・指導を受けた。基課題となった基盤研究（C）の研究目的は中国と日本の外交政策の分析と比較であったことに対し、本国際共同研究の目的は以上の対外政策

の比較分野の研究を発展させる形で、日本とアメリカの対中央アジア外交政策を比較することにあった。派遣先においての研究活動は主に以下の５つである。

【1】　コロンビア大学ハリマン研究所所長で米中の対中央アジア政策の第一人者であるCooley教授と共同で理論研究を行い現実主義、自由主義、建設主義などと対比してアメリカ・日本・中国の対中央アジア政策の分析を行った。
【2】　資料調査を行う際に、コロンビア大学、ジョンホプキンズ大学、ブルキンズ研究所、などの図書館を活用した。
【3】　本研究の一環として米国政府の支援により活動するEast－Westセンターにおいて研修を行い、政策関係者の参加のもとで研究発表を行う機会を通して本研究に関する意見交換を行った。そしてその成果をEast－Westセンターにより刊行物にまとめ刊行した。
【4】　Cooley教授との共同聞き取り調査を実施し、第２に上げたアメリカの大学の専門家などに対するアンケート・インタビュー調査を実施した。意見交換の一環として George Washington大学において2回にわたり共同ワークショップ開催した。
【5】　Cooley 教授との共同作業の結果として①アメリカの対中央アジア外交政策の概念化を行い、②中国、アメリカと日本の外交政策との比較に関して成果的に著名なRoutledge社による単著の下準備と編集作業を行った。

４．研究成果

本研究は中央アジア諸国の国際関係において影響力を持つ日中米の対中央アジア政策をどのように位置付けているのか、政策決定過程の理解と理論的な説明を試みた。これらの国がそれぞれに競争や協調をしつつこの地域を全体として扱っているにもかかわらず、先行研究では二国間関係の事例のみが扱われてきた。本研究はこうした研究上の問題点を克服し、日中米が中央アジア諸国とどのような関係を築いてきたのか、その戦略はいかなるものだったのかを論じた上で、これらの国々がそれぞれ構築している地域的な外交枠組みの実態と相互の関連性を明らかにした。そしてこれらの国の中央アジア地域におけるソフトパワー構築の試みを比較し、それらが現在どの段階にあるのかを解明した。さらに本研究は、日中米がこの地域において行っている多国間と二国間そして草の根プロジェクトの各レベルの分析も試み、かつ経済、外交・安全保障、世論とアイデンティティの観点から比較を行ってきた。その結果、日中米において対中央アジア政策の重要性と位置づけの違いが判明した。中国の場合、資源開発と貿易以外において近年のインフラ開発が最重要課題とされており、その中で中央アジア地域に発展をもたらすというより、中国の経済発展の維持が重視されている。米国の場合、ロシアや中国の拡大の制限という政治的な目標以外にアフガニスタンにおける米国の戦略を成功させる意味でも中央アジア地域は非常に重要な位置づけにある。そして、日本の場合、中央アジア地域における政策上の位置づけは今後の重要な課題であり、現時点において資源開発、経済的なフロンティアに過ぎないものになっている。

本研究の研究成果として以下の３点が挙げられる。

第一に、本研究の問題点として中央アジア諸国と米日中の関係が挙げられ、このような関係がどのように国民から見られるのかを分析した。同時に、国民の国家間関係に対する姿勢をどのように分類すべきかについて議論し、このテーマを研究する上で国民感情をどのように概念化すべきかについては意見が分かれた。本研究において、国民感情を一般国民（とくに学生に対する世論調査）、官僚の見方（その場合、行動計画をその見方の結果としてみる）とこれらの国家を代表する政治家の姿勢（政治言説）に分けて分析した。

第二に、上記の国民感情を把握することは、どの国家においても重要な課題である。中国と中央アジア諸国の関係において政治言説の研究がこれまで重要な研究テーマになってきたが、一般国民がその政策をどのように見ているかはそれほど重視されてこなかった。しかし、政治体制の本質から判断し、「一帯一路」に対する中国と中央アジア諸国の政府の姿勢の把握のみでは一般国民の姿勢を把握できるとは言えず、「国民感情」が国際関係論の重要な研究対象になると期待される。

第三に、本研究の「一帯一路」に対する国民感情を研究する過程で明らかにしたこととして、外交政策の「説得力」は「国民感情」によって変わるという点が挙げられる。そういう意味では「一帯一路」はある意味では「言説」に過ぎず、国民の姿勢により、その効果は変わっていく。従って、国民の感情が「一帯一路」を含む外交政策を形づけていく要因の一つであり、中国や中央アジア諸国以外の国々の外交政策を理解していく上でも非常に重要な研究対象になる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　14件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 Dadabaev Timur	４．巻 59
２．論文標題 Afghanistan in 2018	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Asian Survey	６．最初と最後の頁 114～123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1525/as.2019.59.1.114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Dadabaev Timur	４．巻 136
２．論文標題 Central Asia: Japan's New "Old" Frontier	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Asia Pacific Issues (Washington DC/Honolulu: East-West Center).	６．最初と最後の頁 1‐14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Dadabaev Timur	４．巻 December
２．論文標題 The Last Asian Frontier? A Comparison of the Economic Cooperation Agendas of China, Japan, and South Korea with Uzbekistan	５．発行年 2018年
３．雑誌名 The Asan Forum (The Asan Institute for Policy Studies)	６．最初と最後の頁 1‐12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Dadabaev Timur	４．巻 11
２．論文標題 Discourses of rivalry or rivalry of discourses: discursive strategies and framing of Chinese and Japanese foreign policies in Central Asia	５．発行年 2018年
３．雑誌名 The Pacific Review	６．最初と最後の頁 1～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09512748.2018.1539026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 8
2．論文標題 Japan Attempts to Crack the Central Asian Frontier	5．発行年 2018年
3．雑誌名 AsiaGlobal Online (Asia Global Institute The University of Hong Kong)	6．最初と最後の頁 1‐4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 58
2．論文標題 The Chinese Economic Pivot in Central Asia and Its Implications for the Post-Karimov Re-emergence of Uzbekistan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Asian Survey	6．最初と最後の頁 747～769
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi.org/10.1525/AS.2018.58.4.747	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 2
2．論文標題 Uzbekistan as Central Asian game changer? Uzbekistan’s foreign policy construction in the post-Karimov era	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/2057891118775289	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 2
2．論文標題 Engagement and contestation: The entangled imagery of the Silk Road	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Cambridge Journal of Eurasian Studies	6．最初と最後の頁 Q4GIV6～Q4GIV6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.22261/CJES.Q4GIV6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 8
2．論文標題 Chinese economic pivot in Central Asia and re-emergence of post-Karimov's Uzbekistan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Asian Survey (University of California Press)	6．最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 9
2．論文標題 “Silk Road” as foreign policy discourse: The construction of Chinese, Japanese and Korean engagement strategies in Central Asia	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Eurasian Studies	6．最初と最後の頁 30～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1016/j.euras.2017.12.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 2
2．論文標題 Engagement and Contestation	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Cambridge Journal of Eurasian Studies	6．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.22261/CJES.Q4GIV6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 Issue 1
2．論文標題 Water-resource Management in Central Asia: A Japanese Attempt to Promote Water Resource Efficiency	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Journal of Comparative Asian Development	6．最初と最後の頁 64-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/15339114.2015.1115745	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 49(2)
2．論文標題 Evaluations of Perestroika in Post-Soviet Central Asia: Public Views in Contemporary Uzbekistan, Kazakhstan and Kyrgyzstan	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Communist and Post-Communist Studies	6．最初と最後の頁 179-192.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.postcomstud.2016.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Dadabaev Timur	4．巻 Special issue
2．論文標題 The Constructivist logic of Uzbekistan's foreign policy in the Karimov era and beyond	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Central Asian Survey (Taylor and Francis)	6．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　2件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 Dadabaev Timur
2．発表標題 中国と日本の対中央アジアインフラ建設の戦略
3．学会等名 2018年度政治学会（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 Dadabaev Timur
2．発表標題 中央アジアにおける記憶問題
3．学会等名 ロシア史学会年次大会（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

〔図書〕　計6件

1．著者名 DADABAEV Timur, ISMOILOV Murod, Yutaka Tsujinaka	4．発行年 2017年
2．出版社 Palgrave Macmillan	5．総ページ数 188
3．書名 Social Capital Construction and Governance in Central Asia: Communities and NGOs in post-Soviet Uzbekistan	

1．著者名 DADABAEV Timur	4．発行年 2018年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 214
3．書名 Memory and Identity in Post-Soviet Central Asia	

1．著者名 Dadabaev Timur	4．発行年 2017年
2．出版社 Palgrave Macmillan	5．総ページ数 185
3．書名 Social Capital Construction and Governance in Central Asia	

1．著者名 Dadabaev Timur	4．発行年 2017年
2．出版社 Palgrave Macmillan	5．総ページ数 139
3．書名 2017, Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era	

１．著者名 Dadabaev Timur	４．発行年 2019年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 180
３．書名 Transcontinental Silk Road Strategies: Comparing China, Japan and South Korea in Uzbekistan	

１．著者名 Dadabaev Timur	４．発行年 2019年
２．出版社 East West Center	５．総ページ数 80
３．書名 Chinese, Japanese and Korean In-roads into Central Asia: Comparative Analysis of the Economic Cooperation Road Maps for Uzbekistan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	Ｃｏｏｌｅｙ　Ａｌｅｘａｎｄｅｒ (Cooley Alexander)	コロンビア大学・ハリマン研究所・所長・教授	